

「医師の能力としてのプロフェッショナリズム」の最終到達像と各節目における中間目標

第18期倫理・プロフェッショナリズム委員会案

2015.02.23

ここに記載した「医師の能力としてのプロフェッショナリズム」の最終到達像は、医師が持つべき全ての能力の中の一つである。医師として他にどのような能力が求められるかは別途検討がなされる必要があるが、その中でプロフェッショナリズムは、単純に他の能力と並列関係にあるわけではない。すなわちプロフェッショナリズムは、例えばコミュニケーション能力、例えば生涯学習能力、例えば医療安全に必要な能力などを身につける上での動機や原動力として働くものである。プロフェッショナリズムがなく、それ以外の動機や原動力、例えば高収入を得たいという欲求や、高い地位を得たいという欲求に突き動かされた時、身につけるべき他の能力は大きく変化してしまうだろう。

この文書が想定している「医師」は、臨床医に限らず、医師の資格をもつ全ての職業人が対象である。プロフェッショナリズムは、専門職個人のあり方、ならびに専門職集団（プロフェッション）のあり方という二つの意味を持つ言葉であるが、この文書は、前者に焦点を絞って記載している。このことは後者を軽視するものではないが、本邦では後者については今後広く社会的な議論が必要な現状にあるとの認識に基づいている。

この文書では、プロフェッショナリズムの中に以下の7つの下位概念を設定している。

1. 患者や生活者との関係における医師
2. 社会的使命への貢献
3. 医師に求められる道徳性
4. 多様な価値観の受容と公正性への配慮
5. 組織やチームのリーダー／メンバーとしての役割
6. 卓越性の追求と生涯学習
7. 自己管理とキャリア形成

1では保健医療の対象者である患者や生活者との関係のあり方、2と3では患者や生活者の有機的集合体としての社会との関係のあり方、4と5では属する組織やチームとの関係のあり方、そして6と7では自分自身との向き合い方について記載されている。各下位概念では、最初に医師が生涯目標とすべき最終到達像について概念的に説明している。

その後、医師養成課程における節目（医学部入学時、臨床実習開始時、医学部卒業時、臨床研修修了時）ごとの中間目標を記載している。ここで、時間的により後ろに位置する到達目標では、それ以前の時点における到達目標が達成されていることを前提として記載していることに留意されたい。また、中間目標は観察可能な行動として記述しているが、語尾が「～できる」となっている場合と「～している」となっている場合がある。前者は、指示されればやって見せることができるレベルが期待されていることを示し、後者は、生活や実務の中で実際にその行動を取っているレベルが期待されていることを示す。

最後に、ここに掲げられた医師としての最終到達像や中間到達像は、一度達成すれば安住できる静的な目標ではなく、常に自らを振り返り、より高いレベルを目指して努力し続ける真摯な姿勢が求められていることに留意されたい。

1. 患者や生活者との関係における医師

- 医師は、患者を単に傷病を有する個人としてのみならず、様々な人間関係やそれに伴う感情を持ち、経済的・文化的な活動も行う生活者として理解した上で共感し、思い遣り、患者の自律性を尊重した良好な患者-医師関係を構築して、医療のみならず社会的支援や介護・福祉の必要性も含めて配慮する。

(1) 医学部入学時の選抜基準：

- a. 傷病を持つ人の生活や感情に関心を持っている

(2) 臨床実習開始時の到達目標：

- a. ボランティア活動(医療に限らない)やコミュニティ活動などに参加し(カリキュラムの一環でも可)、支援を必要とする人々や疾病を持つ人々、あるいは生活者と人間的なコミュニケーションを取っている

(3) 医学部卒業時の到達目標：

- a. 患者やその家族と、医学医療以外の話題でもコミュニケーションを取り、チーム内での意思決定においてその情報を役立てている

(4) 臨床研修修了時の到達目標：

- a. 患者の自律性を尊重した病状・選択肢の説明を行っている
- b. 病を持つ患者の生活を支援するため、介護・福祉制度の利用や、社会的支援の獲得に向けた調整を行っている

2. 社会的使命への貢献

- 医師という職業は、人々の健康をできる限り維持するという重要な役割を社会から託されている。その役割に生涯を通じて貢献することを前提として、医師には業務および名称独占権、加えて経済的報酬や社会的評価が与えられている。医師は常に、社会が医師に何を期待しているのかを感じ取り、個人として、そして専門職集団として、その期待に応えることができているかどうかを振り返り、期待に応えるためのあらゆる方策を実行する能力の修得に努め続ける。そのことを人生の目標の一つとする価値観を

医師たちが共有することを通じて、医師はこの責務を全うする。

- また医師は、多くの社会資源を投じて公的に育成されており、医師自身が公的な性格を持った社会資源である。加えて、多くの先達や同僚、医師以外の多くの他職種、そして何よりも患者・生活者やその家族、市民からも、無償の支援を受けて成長する。医師は、それらの支援に対し感謝の心を持つとともに、それらの支援が社会的使命に貢献する医師を育てるために行われるものであると受け止め、自らも惜しまず他者を支援する。

(1) 医学部入学時の選抜基準：

- a. 多様な保健医療に関連する情報を得たり、自ら体験したりして、それらについて考察している
- b. 医師の養成は社会的要請によって行われていることを認識している

(2) 臨床実習開始時の到達目標：

- a. 医師が社会的使命を負う存在であることを理解している
- b. 医学生に対して多くの社会資源が投じられていることを認識し、その期待に応えるべく学習に取り組んでいる

(3) 医学部卒業時の到達目標：

- a. 医師という資格が負う社会的使命を、自らの生涯の使命として進んで受け容れている
- b. 医師は専門職集団（プロフェッション）の一員であることを理解し、進んで受け容れている
- c. 医師免許という国家資格を授かる者として、患者やその家族を含め多くの人々が、将来社会的使命を負う存在として援助してくれたことを認識し、感謝の心を持って、社会的使命への貢献を宣言している

(4) 臨床研修修了時の到達目標：

- a. 医師に対する社会の真のニーズを、常に深く掘り下げて理解するよう努めている
- b. 保健医療システムの中で社会のニーズに応えられる個人として成長するために、今後の臨床・学習の場や内容を計画している
- c. 共に社会のニーズに応じて行くべき専門職集団の一員として、他者からの評価を積極的に受けている

3. 医師に求められる道徳性

- 医療は、医療者と患者およびその周辺との信頼関係の上に成り立っている。医師は個人として、さらには専門職集団として、患者や社会からの信頼に値する道徳性を身に着けるべく、常に高みを目指して行動する。道徳性には、社会人としてのマナーや法令遵守も含まれるが、その上に、職業によって相応し

い道徳性がある。医師は、医師という職業に最も必要な、保健・医療・福祉・介護などを必要とする患者や生活者への思い遣りを常に発揮し、次いで公正性や、患者や生活者の自律性の尊重を発揮する。

- 医師にとって思い遣りの道徳性とは、保健・医療の実践そのものであるが、疾病予防の重視や、意思表示ができない生命を尊ぶ倫理観も含まれる。
- 公正性には、誠実さ、平等な医療の提供、利益相反の適切な管理、限りある資源の公正な分配、説明責任、守秘義務の遵守などが含まれる。

(1) 医学部入学時の選抜基準：

- a. 医師という職業は、患者や社会からの信頼の上に成り立つことを認識し、受け容れている
- b. 学業上の不正、日常生活においても法に触れる行為は行わない

(2) 臨床実習開始時の到達目標：

- a. 患者やその家族のプライバシーに配慮し、守秘義務を厳守している
- b. 医師の利益相反の問題に関心を持ち、疑わしい行為への誘いを断ることができる
- c. 生命倫理に関心を持っている
- d. 社会人として相応しい良識ある行動を取っている

(3) 医学部卒業時の到達目標：

- a. 患者やその家族に対する説明責任を果たし、嘘をつくことがない
- b. 置かれている環境の中で、可能な限り予防医療の実践に努めている

(4) 臨床研修修了時の到達目標：

- a. 研究や著述などにおいて、不正行為を働いたり、虚偽を含めることがない
- b. 限りある医療資源を公正に活用している

4. 多様な価値観の受容と公正性への配慮

- 医師は、社会的使命への貢献を価値観として共有するが、その他の点（例えば政治や宗教、結婚や家庭や育児や介護など）では医師の間でも異なる価値観がある。また、医師の周辺には異なる価値観を持つ職能があり、さらに、患者やその家族や一般市民はさまざまな価値観を持っている。医師は、このような異なる価値観を持つ人々の存在を受容し、耳を傾ける柔軟な姿勢を持つ。また医師は、組織や社会における差別を克服し、協働するために努力する。

(1) 医学部入学時の選抜基準：

- a. 異なる価値観を持つ他者とも交流できる

(2) 臨床実習開始時の到達目標：

- a. 患者や家族にはさまざまな価値観があることを認識し、受け容れる
- b. 他の医療職を目指す学生と交流し、それぞれの視点があることを認識し、受け容れる

(3) 医学部卒業時の到達目標：

- a. 傷病や妊娠、家庭の事情などで変則的な勤務を行っている医師や他の職員の存在を受け容れ、積極的に支援する
- b. 職業上異なる価値観を持つ人々と協働する

(4) 臨床研修修了時の到達目標：

- a. 生物学的性差と社会的性差を正しく認識し、組織や社会における社会的性差を克服するよう努める
- b. 医師の間でも、職業以外の点では異なる価値観があることを受け容れ、価値観の相違をお互いの理解の機会と捉える

5. 組織やチームのリーダー／メンバーとしての役割

- 医師は、組織やチームのメンバーとして、時にはリーダーとして、様々な医師や他職種、患者やその家族も含めて連携し、個人ではなし得ない成果を挙げる能力を発揮する。これには、礼儀や礼節を含めた適切なコミュニケーションにより人間関係を構築し、目的や目標を共有して協働する能力が含まれる。また、組織を維持するために社会的使命の遂行に支障をきたしたり、医師としての道徳性を損なったりしないよう留意する。

(1) 医学部入学時の選抜基準：

- a. 他者に関心を持ち、基本的な礼儀や礼節を弁え、他者の意見に耳を傾け、質問をし、自らの考えを述べている

(2) 臨床実習開始時の到達目標：

- a. チームの一員として、進んで自らの役割を見出し、リーダーや他のメンバーに協力し、必要な時にはリーダーや他のメンバーに相談している
- b. 医師以外の職種の役割を理解する

(3) 医学部卒業時の到達目標：

- a. 医療チームの中で役割を持ち、適切に相談・報告・連絡を行っている

(4) 臨床研修修了時の到達目標：

- a. 他の医師や他職種との協働において、必要な際には調整役を果たしている
- b. 組織の一員として、システムの改善のための活動（質の改善、患者安全など）に参加している

6. 卓越性の追求と生涯学習

- 医師は情報を批判的に吟味した上で学習を続け、自己の能力を高く保つことを通じて、社会の信頼を得る努力を生涯続ける。また、社会の期待の変化やそれに伴う制度の変更などに適切に対応する。そのために医師は、自己のパフォーマンスを自ら振り返り、自己の限界を知り、360°からのフィードバックを受け容れ、教育を受けて行動を変える。
- また医師は、研究や学術集会での発表などを通じて、医学の進歩に貢献する努力を続ける。さらに、自らが所属する組織などにおいて提供される医療の質の向上に努力する。
- 加えて、医師は後進の教育のみならず、同僚や先達、患者やその家族、あるいは社会とも積極的に知を共有（共有）する姿勢を持つ。

(1) 医学部入学時の選抜基準：

- a. 学校の課題や受験のための勉強以外に、興味を持ったことについて図書館やインターネットなどで調べて学習している
- b. 辞書を使いながら、英語で書かれた科学記事を読むことができる

(2) 臨床実習開始時の到達目標：

- a. 自分の知らないことをそのままにせず、質問をしたり、テキストを調べたりして疑問を解決する
- b. EBMのステップ1～4を、時間をかけても実践する

(3) 医学部卒業時の到達目標：

- a. 日々の臨床経験の中で疑問点を挙げ、複数の情報源にあたって自ら学習を進める
- b. カンファレンスで積極的に発表し、また他者の発表に質問や意見を述べる
- c. 後輩や同僚との間で、定期的に知を共有する仕組みを作っている、あるいは参加している

(4) 臨床研修修了時の到達目標：

- a. 自ら進んで指導者の評価を受け、助言を受けて自己のパフォーマンスを改善する
- b. 学会発表（地方会、症例報告を含む）の準備を行い、指導者や同僚の助言を繰り返し受けて、より良

いものに仕上げる努力を行った上で発表する

- c. 医学雑誌のコンテンツを定期的にチェックし、新たなエビデンスを吟味し、自分の診療を改善する
- d. 後輩医師に対する教育や支援を自らの役割の一つとして受け容れ、積極的に関与している
- e. 同僚医師やメディカルスタッフ、事務職・介護職・福祉職、患者やその家族、一般市民に対して、積極的に自らの知を共有し、業務や学習を支援している

7. 自己管理とキャリア形成

- 医師は、時間という限られた資源を有効に活用する必要があり、時間管理の能力は重要である。また、他者にとっても時間資源は限られたものであることを認識し、診療や会合の時間を守る。
- また医師は、社会的使命を全うするために、さらには健康という価値を提供することを役割とする立場としてロールモデルとなるためにも、自らの健康に留意する。
- 医師のキャリアにおいては、いくつかの予測可能な、そして予測不可能なライフイベントが発生する。そのため、複数の多様な将来像の中から、予測されるライフイベントも考慮し、また先輩などからのアドバイスを求めて、当面の学習計画を立案する。また予想外のライフイベントやその他の状況の変化に応じて、柔軟に計画を修正する能力を持つ。

(1) 医学部入学時の選抜基準：

- a. 時間を守り、不測の事態で時間が守れない時には関係者に連絡する

(2) 臨床実習開始時の到達目標：

- a. 成人後も喫煙や過度の飲酒を避け、運動の習慣を持つ
- b. 家族やアルバイトなどの社会関係を良好に保ち、自らの役割を果たす

(3) 医学部卒業時の到達目標：

- a. 複数のキャリアに興味を持ち、様々なキャリアの医師と交流する
- b. 結婚や出産、育児、親の介護などについて経験者などの話を聞き、自らのキャリアを考える

(4) 臨床研修修了時の到達目標：

- a. 5～10年程度先までの自分なりのキャリアプランを持っている